「板橋Cityマラソン」のスタートの様子

スポーツの力で魅力あるまちづくり

～板橋区「いたばし未来創造プラン」による地域活性化～

板橋区では、「板橋」ブランド力を発信するために「文化・スポーツの振興」を活用した施策を行っています。
「いたばし未来創造プラン」の中で魅力あるまちづくりを行い区内外へアピールするために、
「スポーツ大使」「スポーツプロモーター」の創設や、
区内へプロスポーツの誘致活動など他区にない独自の取組を行っています。
区民にとっては愛着のあるまちに、区外の人にも一度は訪れたい、住んでみたいまちとして
注目を集めるきっかけとなる板橋区のスポーツを最大限に活用した地域振興の独自の取組を紹介します。

地域が盛り上がる大きなイベント

はじめて開催された国際的な大会

平成26年3月、板橋区内で大きなスポーツイベントが開催されました。日本国内のみならず世界からも多くの注目を集めた「女子レスリングワールドカップ」、そして毎年恒例の「板橋Cityマラソン」です。

3月15日(土)・16日(日)の2日間区立小豆沢体育館で実施された「女子レスリングワールドカップ（国別対抗戦）」は、板橋区内初の国際的な大会で、当日は吉田沙保里選手も参加し、日本が優勝するなど大きな注目を集めました。

板橋区も共催事業として、会場でレスリング体験教室を実施したほか、大会当日には、区内の町会・団体等の参加・協力のもと、模擬店の出店、会場周辺の清掃や横断幕の設置、地元商店街によるペナントの設置など、地域をあげての「おもてなし」を行い、会場周辺は外国からの観客を含む多数の観客でにぎわいました。

「板橋Cityマラソン」でゲスト参加したバルセロナ、アトランタ五輪女子マラソンメダリスト有森裕子さん（右）と、ロンドン五輪競泳女子メダリスト加藤ゆかさん（左）

区に定着、大規模なマラソン大会

3月23日(日)に開催された「板橋City マラソン」は、平成11年5月より「東京荒川市民マラソン」の名称で始まり、平成23年に現在の名称となったイベントです。都内で開催されるマラソン大会の中でも歴史ある大規模な大会として年々参加者も増えており、今年は1万4341人の市民ランナーが参加しました。

当日は会場にバルセロナ、アトランタ五輪女子マラソンメダリストの有森裕子さんや板橋区在住でロンドン五輪競泳女子メダリストの加藤ゆかさんが参加し、大会も大いに盛り上がりました。

区のにぎわい創出「いたばし未来創造プラン」

いたばし未来創造プランとは

区内にはロンドン五輪ボクシングメダリストで現在はプロボクサーの村田諒太さんなど多くのアスリートが在住しており、オリンピック後には、板橋区役所で凱旋報告会が行われました。

区では、こうしたスポーツイベントの開催やスポーツ選手との関わりを通じ、区の魅力をアピールし、まちのにぎわい創出につなげていくため、他の自治体にない取組を行っています。

特に、地域がプロスポーツとつながりを持つことやトップアスリートとの交流を持つことは、日常生活の中で得がたい人々の感動や気持ちの高揚などにつながります。そして交流が地域に根付くことで区民同士のつながりが強まり、にぎわい創出も期待できます。

区では、「いたばし未来創造プラン」の中で、「文化・スポーツ」を複数ある成長分野の重要な一つとして捉え、都市の魅力を高め交流人口を増やす「文化・スポーツによるにぎわい創出」を行い、魅力創造発信都市としてアピールしようとしています。

その中でも特徴的な取組として「スポーツプロモーター」「スポーツ大使」の創設があげられます。

「スポーツプロモーター」が地域振興にひと役

「スポーツプロモーター」はオリンピック、世界選手権等の国際大会や国民体育大会、全日本選手権等の国内大会において、入賞経験のあるトップアスリートをスポーツ振興課の非常勤職員として採用し、その経験とキャリアを生かして区内のスポーツ施策の推進を図ります。

区では以前からスポーツ振興を行うために、トップアスリートに協力して

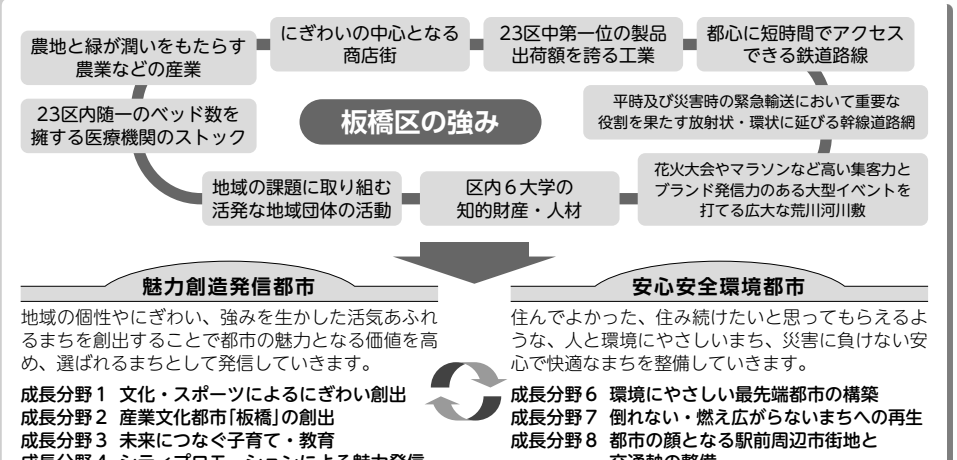
いたばし未来創造プラン

「いたばし未来創造プラン」とは①将来を見据えた成長戦略と経営構造計画への取組②今日的な課題に対応する「№1プラン2015」③経営革新計画の3つの柱によって構成される。

区では、平成17年10月の段階で20年後（平成37年）を想定した板橋区基本構想を策定。基本構想にあわせ平成18年度から平成27年度までは板橋区基本計画に基づいて区政が運営されている。現基本計画の後期5か年の実施計画として平成23年1月に「いたばし№1プラン2015」を策定したが、それを着実に推進するための原動力として、「板橋区経営革新計画」（平成23年度～平成27年度）を策定した。

しかし、東日本大震災や欧州債務危機などに端を発した景気後退など社会経済環境の変化が区政経営に多大な影響を与えており、新しい課題を抱えている。また、その最終3か年となる平成25年度から平成27年度は現基本計画の最終3か年を締めくくる実施計画及び行財政改革計画となるだけでなく、将来を見据え、次期基本計画へとつなげていく中長期的な総合計画となる。

そこで「いたばし未来創造プラン」を策定し、特に成長分野を定め、経営資源を振り分ける戦略をとっている。そのうちの一つである文化・スポーツの分野では、都市の魅力を高め交流人口を増やす「文化・スポーツによるにぎわい創出」を行い、魅力あるまちづくりを行い区内外に誰もが住みたい・訪れたいと感じる魅力的な板橋区をPRしようとしている。



区のスポーツ大使に任命されたロンドン五輪ボクシングメダリスト村田諒太さん（写真は区役所で行われた平成24年９月13日の金メダル受賞報告会）

もらうことを検討していました。そこに、現役引退をしたロンドン五輪競泳女子メダリストの加藤ゆかさんが競技経験を生かせる仕事を通じて、自分を育ててくれた地域や人々に恩返しをしたいという希望があることを知りました。それを踏まえ、最初のスポーツプロモーターとして採用に至りました。

加藤さんには、トップアスリートの知識、経験、人脈等を生かした、スポーツ事業の企画立案、運営が期待されています。

また、板橋区はオリンピック選手育成拠点の役割を担う味の素ナショナルトレーニングセンター（以下、「ＮＴＣ」という）に隣接していることから、スポーツプロモーターを担う人の人脈などを通じて、（公財）日本オリンピック委員会（以下、「ＪＯＣ」という）等との連携による事業の実施も期待されるほか、東洋大学を始めとした大学との連携、区内の有望なジュニア選手の発掘に期待がかかっています。

（右）全日本女子レスリングチームも第２期スポーツ大使に（写真は吉田沙保里選手）（左）村田諒太さん、加藤ゆかさんも第１期スポーツ大使として活動

「スポーツ大使」の持つ役割

多くの自治体では観光大使などの事業を通じて区の魅力を発信していますが、区では、スポーツを通じてシティプロモーション活動を行うため「スポーツ大使」を創設して、区のスポーツ振興及び都市ブランドの向上を図っています。

スポーツ大使には、第１期には加藤ゆかさんと村田諒太さんが、第２期に全日本レスリング女子チームが選ばれました。さまざまなスポーツ活動を通じて板橋区の魅力を区内外にＰＲしています。

加藤さんは、板橋Ｃｉｔｙマラソンにおける大会ゲストとして、開会式での選手への応援メッセージの発信やスタート時の選手の見送り、表彰式でのプレゼンテーターを行ったほか、自ら小学生の部（５００ｍ走）へ参加して大会を盛り上げました。

このように、スポーツ大使として加藤さんが参加することで参加者、観客の注目を集めるだけでなく、一緒に写真撮影の機会があることでイベントがさらに盛り上がるなど、区のスポーツ振興に大きくつながってきます。

地域振興にスポーツの持つ力

プロスポーツの誘致による地域振興

「いたばし未来創造プラン」をもとに、スポーツチームとの交流や五輪・パラリンピック招致活動で商店街がイベントを企画し地域振興を行う例も増えています。

ひとつはプロバスケットボールチーム「東京エクセレンス」の誘致による地域振興・地域交流です。

区では、プロスポーツとの連携が地域の活性化につながっていくと考え、プランの中で「感動を呼ぶスポーツによるホームタウンの創出」を目標としていました。そこに東京23区を拠点とするＮＢＤＬリーグの東京エクセレンスが、区立小豆沢体育館でのプロバスケット試合開催のための使用申し出があり、さらにチームは試合を行うだけではなく、地域貢献したいという意向があったため、検討を重ねました。区としても地域の活性化を考え①区民生活の質の向上に関すること②スポーツを通じた地域活力の向上に関すること③スポーツを通じて次世代を担う青少年の成長を育むこと④区民のスポーツの機会の充実に関すること――以上４点の連携を踏まえたうえで誘致、協定締結に至りました。区立小豆沢体育館では、平成25年から平成26年にかけて、開幕戦を含む５試合を行いました。

「成増阿波おどり大会」では東京エクセレンスの選手との地域交流が行われた

板橋イナリ通り商店街では、オリンピック開催決定カウントダウン提灯のイベント（上）やソチ五輪必勝祈願「チョコまき」（下）を実施し区内の盛り上げにひと役買った

また、平成26年から平成27年にかけては12試合を予定しています。

地域商店街も「東京エクセレンス」の選手の地域交流の関わりを通じて、地域振興に生かしています。

例えば、中板橋商店街「なかいたへそ祭り」や志村銀座まつりでは、身近で初めてみるプロの選手たちがバスケットボールの実演や区民とのドリブル競走などを行い交流を図ることでイベントを盛り上げています。

また、区内小中学校への特別活動、特別授業の参加や部活動の指導等を行い地域貢献しています。こうして区民も選手と直接交流できることは、プロバスケットボールの知名度を上げるだけでなくホームタウンとして自分の住む区への愛着にもつながっていきます。

地域振興につなぐ商店街独自の取組

女子レスリングワールドカップ開催や五輪・パラリンピックの招致活動・開催決定時に注目を集めたのが板橋イナリ通り商店街です。地元の大学と飲食店舗の新メニュー共同開発や地元企業と連携した地域情報掲示板設置などで、東京都が支援する「地域連携型モデル商店街事業」にも指定され独自性を持って取り組んでいます。

商店街はＮＴＣから徒歩５分のところにあり、商店街の飲食店で食事をする選手の姿や商店街内の稲荷神社で必勝祈願をする選手を見かけられるといった関わりがあります。それがきっかけとなり、オリンピック開催決定カウントダウン提灯の設置やいたばし観光キャラクター「りんりんちゃん」の金色のコイン型チョコレートが節分豆まきの代わりに振る舞われた「ソチ冬季五輪の必勝祈願『チョコまき』」が行われ、テレビなどで取り上げられるなど大きな話題となりました。

また、女子レスリングワールドカップ開催時にも、さまざまなきめ細やかな「おもてなし」が多くの商店街などで自然発生的に行われ、大きな盛り上がりを見せました。

今後は東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた連携を踏まえ、さまざまなイベントが行われることも期待されます。

このように、イベントなどを通じてスポーツ振興が行われることは区民にとっても受け入れやすく、地域の町会や商店街の活気にもつながっていきます。そして区内全域に盛り上がりが広がり、魅力あるまちづくり、住みたくなるまちづくりに取り組む気運が高まります。

スポーツを活かした地域振興の将来展望

東京オリンピックとの連携も

「女子レスリングワールドカップ」では２日間で延べ２５３０名（観客１５６６名で両日満席、共催となったレスリング体験教室には１６４名、おもてなしイベントには８００名が参加）の来場者がありました。開催以降も区民からはレスリング競技の大会や教室などの事業を継続して欲しいといった要望が多く、第２期「スポーツ大使」である全日本レスリング女子チームによる競技の普及や区のスポーツ振興に期待がかかるところです。

区内には区立小豆沢体育館などの区立運動施設だけでなく東洋大学総合スポーツセンター、近隣地区のＮＴＣなどの重要な拠点を生かしたスポーツ振興を行えます。

また、積極的なＪＯＣとの連携により、区内のスポーツ施設等を利用した大会や練習場の誘致が検討しやすい状況です。

今後、区のスポーツ振興によって再び女子レスリングのような大きなイベントを行ったり、「スポーツプロモーター」や「スポーツ大使」のように区の魅力を区内外に発信できれば、訪れたい、住みたいと思えるまちとして将来的に人が増加し、町会や商店街を巻き込んだ地域振興につながっていきます。

今後の区のスポーツ振興で重要な役割を担う区立小豆沢体育館（左）と、「レスリング教室」の集合写真（右）